

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

地域が誇る、規律と活気ある学校をめざす。

#### 1 生徒が元気！ 伸び伸びと活気あふれる生徒たち

「賢さ、優しさ、強さ」を兼ね備え、夢と志をもって常にチャレンジする「たくましい交高生」を育てる。

#### 2 教職員が元気！ 情熱をもって生徒に向かう教職員集団

教職員が心をつなげてそれぞれの役割を果たし、同僚性をもって互いに力量を高め合い、教科指導や生徒指導に取り組む。

### 2 中期的目標

#### 1 確かな学力の育成

(1) 教科指導を充実させ、学力を向上させる。

ア 生徒を鍛え、伸ばす授業の実現をめざし、交野 21 委員会を核にして「平成 27 年度学校経営推進費」による ICT を活用した授業研究を進める。

イ 学習に向かう意識を向上させ、家庭学習時間を増加させる。 ※ 授業アンケート満足度 71% (H26) → 80% (H29)

(2) 進路指導を充実させ、チャレンジ精神をもって進学・就職に取り組んでいく姿勢を育成する。

ア 3年間を見通した進路指導計画を確立し、学力生活実態調査等を活用して、時機を捉えた進路指導に努める。

イ 進路選択に対する意欲を喚起するために、様々な機会を設定し、その内容の充実を図る。

※ 一般入試受験者数 110名 (H26) → 120名 (H29)、希望する進路達成率 67% (H26) → 75% (H29)

(3) 文・理ともにコースの教育内容の一層の充実を図る。

ア 「英語専門コース」では、英語でのコミュニケーション能力を一層向上させ、実践的で総合的な英語力を身に付けさせる。

イ 「理数専門コース」では、基礎・基本の学習及び観察・実験等を通して、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせる。

ウ 「学芸コース」では、興味・関心や進路に応じた様々な選択科目を設定し、個々の進路実現を図る。

※ 英語検定準2級合格率 31% (H26) → 45% (H29)、理系の進路達成率 70%以上を維持 (H29)

#### 2 豊かな人間性の涵養

(1) 特別活動や部活動、地域と連携した活動等を通して、自主性、協調性、自己有用感を育む。

ア 学校行事や生徒会活動、部活動等において主体的な取り組みを引き出し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※ 部活動や行事に対する満足度 80%以上を維持 (H29)

(2) 基本的生活習慣を定着させるとともに、規範意識を醸成する。

ア 厳しく温かみのある生徒指導により、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

※ 遅刻者数毎年 10名/日 未満を維持

(3) キャリア教育、人権教育を総合的に行い、夢と志をもって学校生活を送る生徒を育てる。

ア 「交高生育成プログラム」を練り上げ、充実・発展させる。

※ 各取組みに対する満足度 85%以上を維持 (H29)

#### 3 生徒支援の充実

(1) 校内の教育相談体制を充実させ、支援の必要な生徒、課題のある生徒を適切に支援する。

ア 教職員間の速やかな情報共有・連携した対応を確実なものとする。

イ 生徒支援委員会、教育相談室等の機能を高め、不登校の防止・対応に努める。

※ 生徒の「相談しやすさ」 48% (H26) → 60% (H29)

#### 4 学校力の向上

(1) 教職員の力量の向上

ア OJT を通した教職員の育成を通して、互いの力量を高め合うとともに、教員の同僚性を育む。

イ 実践的な教職員研修を行い、授業力、生徒指導力、教育相談力等の向上を図る。 ※ 生徒アンケート 全項目数値向上

(2) 働きやすい職場づくり、

ア ICT の活用等によって業務の効率化を図り、教材研究の時間及び生徒と向き合う時間の確保に努める。

イ 必要に応じて委員会等の新設・改廃を行い、学校組織体制の見直しも含め、常に円滑な学校運営に努める。 ※ 自己評価 全項目数値向上

(3) 広報活動の充実

ア 学年メルマガ、HP、学校説明会等により、保護者、中学生等に対して学校情報を積極的に伝える。 ※ 学校説明会満足度 85%以上を維持 (H29)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「指導方法の工夫改善に努めている」に対する教員の肯定的回答は 97%で、その中で「よくあてはまる」が昨年より 15ポイント増加した。時間割内に教科会を設定して授業力の向上に取り組んだ効果であると思われる。</li> <li>・授業アンケートにおける生徒の授業満足度は 72%で、目標を達成できた。</li> <li>・次年度も相互授業見学等をさらに充実させ、よりよい授業の実現をめざす。</li> </ul> <p><b>【学習環境】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習環境の整備」に関する生徒の肯定的評価が 90%であった。自習室活用等の取り組みを継続し、学習意欲の向上につなげていきたい。</li> </ul> <p><b>【学校生活】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は、「学校に行くのが楽しい」80%、「先生の指導には納得できる」75%で、いずれも昨年度を 5%程度上回り、高い評価であった。</li> <li>・「部活動は活発」は 90%と高いが、例年よりは低いことが気になりである。</li> <li>・一方、「先生には相談しやすい」は、昨年より増加したものの 50%程度であり、そのうち「よくあてはまる」は 15%に満たなかった。生徒が悩みを相談しやすいと感じる良好な雰囲気作りが課題であり、相談に対して適切に対応できる教育相談力の向上に努める必要がある。</li> </ul>	<p>第 1 回 (6/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○広報の在り方・・・「生活指導が厳しい」という情報がインプットされている。方向性はよいので、中学校訪問をしっかり行い、「当たり前のことが身につけてよかった」と思っている生徒が多い点を強調すべき。卒業生による説明会を行うとよい。</li> <li>○学校案内・・・楽しそうな写真を多く載せ、毎年更新すべき。生徒が作ると、目を引くものができるかもしれない。</li> </ul> <p>第 2 回 (10/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文化祭・・・中学生が入場しやすくなった。文化祭を知ったきっかけを聞くとよい。金券の購入が必要であることが分かりにくい。すぐに売り切れる店が多すぎた。</li> <li>○家庭学習・・・SHR宿題は意味がある。定期的に取り入れてはどうか。家でスマホに費やす時間が多い現状について、PTAとしての取り組みが必要。</li> </ul> <p>第 3 回 (1/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の 81%が「生徒は・・・教職員に相談することができる」と捉えているが、「相談しやすい」と答えた生徒は 51%である。この差の修正が必要。</li> <li>○生徒と保護者の両方に「挨拶をされない先生がいる」という指摘がある。一部の教員だとはわかっているが、改善をお願いしたい。また、生徒に注意する際は、心の弱い生徒もいるので、状況に応じて、本人が納得できるよう丁寧に話す必要がある。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 教科指導の充実による学力の向上 ア 学校経営推進費による ICT を活用した授業研究の実施 イ 学習に向かう意識の向上</p> <p>(2) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導計画 イ 進路選択に対する意欲の喚起</p> <p>(3) 各コースの充実 ア 英語専門コース イ 理数専門コース ウ 学芸コース</p>	<p>(1) ア・生徒を鍛え、伸ばす授業をめざして、授業研究を進め、「授業力向上に向けての研修会」を実施する。 ・教科ごとに研究授業を行い、相互に授業見学を行って助言し、全教員で研究協議を行う。 イ・自習室、図書室の活用等を通して、学校全体に学習する雰囲気を生み出す。</p> <p>(2) ア・3年間を見通した進路指導計画を確立し、学力生活実態調査等を活用して、時機を捉えた進路指導を行う。 ・放課後、早朝、長期休暇中の講習を系統的に行う。 イ・卒業生講演、外部模試、就職ガイダンス等により、自己の進路実現に向けて取り組む姿勢を養う。 ・スペシャルステイティブを実施し、学習習慣を身に付ける。 ・各種検定の受験、各種コンテストへの参加を推進する。</p> <p>(3) ア・オーストラリア・ホームステイプログラムを実施する。 ・関西外大と連携し、英語 one day キャンプを実施する。 ・英語検定の合格者数の増加をめざす。 ・2年でスピーチコンテストを実施する。 イ・摂南大と連携し、大学での実験・実習を実施する。 ・地域の小学生対象のサイエンス教室を実施する。 ・理系進学実績の向上をめざす。 ウ・体育、芸術、情報における特色ある科目の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・全教科での研究授業の実施 ・各教員が2回以上の授業見学と助言の作成 ・授業満足度 72% (H26 71%) イ・学習の雰囲気に対する肯定的評価 50%</p> <p>(2) ア・一般入試受験 110名 (H26 104名) ・希望進路達成率 70% (H26 67%) ・開講講座数 20 (H26 19 講座) イ・生徒の満足度 80% ・生徒の満足度 80% ・受験者、参加者の状況</p> <p>(3) ア・生徒の満足度 95% (H26 93%) ・生徒の満足度 95% (H26 100%) ・英検 3 級合格率 65% (H26 61%) 英検準 2 級合格 35% (H26 31%) 英検 2 級合格者 5 名 (H26 3 名) ・生徒の満足度 80% イ・生徒の満足度 90% (H26 90%) ・小学生の満足度 90% (H26 90%) ・理系の進路達成率 71% (H26 70%) ウ・授業満足度 70%</p>	<p>(1) ア・教科ごとにテーマを定めた授業研究、2回以上の相互授業見学、全体研修会により、授業改善に向けた技能と意識が向上 (◎) ・授業満足度 72% (○) ・学習環境に対する評価 90% (◎)</p> <p>(2) ア・一般入試受験者 104 名 (○) ・希望進路達成率 71% (○) ・開講講座数 20 (○) イ・進路取組み 満足度 82% (○) ・SSD 87 名参加、満足度 100% (◎) ・漢検 20 名、情報 162 名合格 (◎)</p> <p>(3) ア・ホストリア 15 名 満足度 100% (◎) ・英語キャンプ 18 名満足度 100% (◎) ・英検合格 3 級 71%、準 2 級 38% 2 級 5 名 (◎) ・スピーチ満足度 79% (○) イ・大学実習 満足度 100% (◎) ・サイエンス教室 小学生 61 名 98%、高校生 15 名 100% (◎) ・理系進路達成率 70% (○) ウ・授業満足度 82% (◎)</p>
2 豊かな人間性の涵養	<p>(1) 特別活動や部活動等を通じた、自主性、協調性の育成</p> <p>(2) 基本的な生活習慣と規範意識の醸成</p> <p>(3) 夢と志をもった交高生の育成</p>	<p>(1) ・生徒のアイデアを積極的に取り入れることによって、学校行事や生徒会活動、HR、部活動等における生徒の主体的な取組みを引き出す。 ・地域と連携した活動の充実を図る。</p> <p>(2) ・教員が毎朝校門で生徒を迎え、挨拶・服装・遅刻指導を実施する。また、丁寧な頭髪指導等を行い、落ち着いた学習環境の維持に努める。</p> <p>(3) ・「交高生育成プログラム」を充実させ、キャリア教育と人権教育を総合的に行い、生徒の夢と志を育む。</p>	<p>(1) ・部活動加入率 75%を維持 ・生徒の満足度 85% (H26 83%)</p> <p>(2) ・遅刻者数 現状を維持 (H26 6.5 人/日) ・服装・頭髪違反者ゼロを維持</p> <p>(3) ・各取組みに対する満足度 85%</p>	<p>(1) ・部活動加入率 75% (○) ・行事満足度 84% (○) ・回数、内容ともに昨年度を上回る地域連携活動を実施。</p> <p>(2) ・遅刻者 5.6 名/日 (◎) ・学期毎に服装頭髪検査を実施し、落ち着いた学習環境を維持 (○)</p> <p>(3) ・大学見学、講演会等の取組みへの肯定的評価 85%以上 (○)</p>
3 生徒支援の充実	<p>(1) 教育相談体制の充実による適切な支援</p>	<p>(1) ・支援の必要な生徒に対して、学年主任、担任、養護教諭を中心として教職員が連携し、電話連絡や家庭訪問等により速やかに対応する。 ・生徒支援委員会によって情報を共有し、個々の生徒に対する適切な支援方法を学校全体で組織的に考えていく。 ・教育相談室の機能を高めるとともに、スクールカウンセラーを十分に活用し、不登校の防止・対応に努める。</p>	<p>(1) ・生徒の「相談しやすさ」 55% (H26 48%)</p>	<p>(1) ・生徒の「相談しやすさ」 51% (○) ・生徒支援委員会を毎月開催して、生徒情報の共有が進み、組織的な支援のための連携が深まった。 ・SCの在校時間を、ミニ教員研修の実施や生徒対応の相談、保護者の相談にフルに活用でき、教育相談の意識と力量の向上に役立った。</p>
4 学校力の向上	<p>(1) 教職員の力量の向上</p> <p>(2) 働きやすい職場づくり</p> <p>(3) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ・授業、部活、HR、保護者対応、日常業務等について、経験年数の少ない教員同士のOJT勉強会を実施する。 ・教科会を積極的にを行い、授業力の向上に役立てる。 ・教職員研修や研修報告会、模試結果活用会議等を行い、生徒指導力、教育相談力、進路指導力等の向上を図る。</p> <p>(2) ・ICTの活用等によって業務の効率化を図り、教材研究の時間及び生徒と向き合う時間を確保する。 ・職員室を整備して、円滑な情報伝達・共有を図る。</p> <p>(3) ・ホームページ、学年メルマガ等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。 ・学校説明会、中学校訪問の充実を図る。</p>	<p>(1) ・OJT勉強会 5回 ・教職員研修 3回 ・研修報告会の実施</p> <p>(2) ・自己評価 肯定的回答 70%</p> <p>(3) ・HP更新 140回 (H26 131回) ・メルマガ発信 50回 (H26 47回) ・学校説明会満足度 80%以上維持</p>	<p>(1) ・OJT勉強会 11回 (◎) ・教職員研修 9回 (◎) ・部や委員会内で研修報告会を行い、力量の向上に努めた。</p> <p>(2) ・自己評価 50% 授業準備や生徒対応の時間確保に向け、業務の見直し等、知恵を絞る必要がある (△) ・連絡白板や通知等の閲覧ブック設置、プリンタ配備等、職員室を整備した。</p> <p>(3) ・HP更新 144回 (○) ・メルマガ発信 49回 (○) ・学校説明会 満足度 90% (◎)</p>